

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Plus+days鳳校		
○保護者評価実施期間	2025年5月2日		～ 2025年5月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年5月2日		～ 2025年5月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年6月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちそれぞれに合わせた環境や支援の工夫を行っていること。	利用の子どものようすや活動内容に合わせて部屋の間取りや職員配置の工夫等に努めている。 静養室等も使いつつ、子どものその時々のごようすをみて、必要な対応を柔軟に行っている。	日によっては一部の部屋に子どもが集まるなどばらつきがある。職員の声掛け等を行い、一部に過密になりすぎないように留意する。
2	児童発達支援から放課後等デイサービスにスムーズに移行できていること。	児童発達支援から通所いただくことで、放デイ、就学に向けて段階的に集団での活動の練習を行ったり、スケジュールの把握や気持ちの切り替えの練習を行うことができている。 同じ職員が対応することで、より個々の子どもの特性を理解した上で移行を促すことができている。	小学1年生になってからの問い合わせが多くあるため、児童発達支援があることや取り組み内容について周知に努める。 利用時間としての課題があるため、可能な限りで園との併用に無理が出ないよう柔軟な受け入れ体制を整える。
3	職員間の連携のために様々な仕組みを取り入れて実行していること。	朝礼、昼礼、終礼を毎日実施しその日の利用児童についてを中心に情報共有が行えている。 参加できない職員もいるが、情報が漏れなく伝わるようにノートを活用して共有している。	ノートの活用については職員間でも意識の差があるため、全体に意識を高められるように定期的に注意喚起を行う。 全体を通して簡潔で適切な内容の記録が取れるように努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会が限られていること。	地域のイベントや近隣の大学イベントに参加し交流の機会を設けたが、サービス提供時間の関係等もあり土曜日のみの実施となっている。平日のみ利用している児童にはなかなか地域交流の機会を設けられていない。	地域のイベントを実施する際には、通常は平日のみの利用児童でも参加できるようにお声掛けを行ったり、多くが参加できる仕組みをかんがえたりする。
2	保護者とのコミュニケーションにおいて、人によりむらがあること。	保護者の就労状況等によってはなかなか顔を合わせられる機会が作れない場合がある。	積極的にコミュニケーションをとる機会をつくれるようお声掛けを行うなどに努める。
3			